「神様と長電話」

伊藤貴晴　作

【１】

少女 もしもし。もしもし。つながってる？　電波悪いの？　あれ？　もしもし。もしもし。番号合ってる？　合ってるの？　え、合ってないの？　間違ってる？　おかけになった電話番号は、現在使われておりません。ピーという発信音の後に、あ、これ留守番電話だ。最近聞かないよね、こういうアナウンス。何にも聞こえないんだけど。聞こえてる？　つながってる？　返事してよ。そこにいるの？　いるんでしょ。そこにいることは分かってるんだ。武器を捨てて手を挙げろ。手、挙げても見えないけどね。ねえ、ちょっと、返事してよ。あ、言葉が分からないの？　日本語ダメ？　何語？　フランス語？　ボンジュール。シルブプレ。カルボナーラ。ペペロンチーノ。ジュテーム。え？　カルボナーラとペペロンチーノはフランス語なのかって？　知らないよ、そんなこと。え、聞こえてるの？　聞こえてたの？　それならそうやって言ってよ。え？　言ってた？　聞こえなかっただけ？　私の声は聞こえてたけど、そっちの声は聞こえなかったの。恥ずかしい。やめてよね。いや、でもあなたが電話してるんでしょ。ちゃんと、いや、誰の責任とかそんなこと私に言われても困るけど、そうでしょ、いや、でも、だから、うん、分かった。あなたには責任はないし、私にも責任はない。この場合の責任はＮＴＴにある。ＮＴＴって日本電信電話株式会社って言うの。ＮＴＴのＮはニッポンのＮ。何そのＮＨＫみたいなの。似たようなもんか。え、何の用かって。あなたね、そういう言い方はないんじゃない。用がなきゃ電話しちゃダメなの？　あ、ダメなの。ごめんなさい。いや、違う違う違う、用はある。電話切らないで。あのね、ちょっと文句言いたいんだけど。待って待って待って。切らないで。いや、クレームとかそういうのじゃなくて、いや、そうなんだけど、とにかく話を聞いてほしいの。うん、聞くだけでいいから。あのね、谷川俊太郎の「二十億光年の孤独」っていう詩があるでしょ。知らないの？　あんなに有名なのに？　谷川俊太郎だよ。教えてあげる

【２】

 谷川俊太郎の「二十億光年の孤独」を朗読する。

【３】

少女 この詩を読んで色々と思うことがあるんだけど。まず、火星人はいない。だから火星に仲間を欲しがったりしない。万有引力は孤独の力じゃないし、宇宙がひずんでいるからもとめ合うのは意味が分からない。宇宙が膨らんでゆくから不安になるのは分かる。風船が膨らむと不安になるよね。それと同じ。くしゃみをするのは光くしゃみ反射なんじゃないかと密かに思ってるんだけど。光くしゃみ反射っていうのは、暗いところから急に明るいところに行くとくしゃみが出るアレ。どう思う？　文句は作者に言え？　それは違うと思うんだよね。詩ってポエムじゃん。ポエムにケチつけるのは無粋だし、作者だって迷惑だと思うんだよね。うん、あなたの迷惑は考えてないよ。何、そんなに怒らなくてもいいでしょ。カルシウム足りないんじゃない。もっと広い心で許したり受け入れたりしてよ。別にそういうことが言いたいわけじゃないの。私は孤独だってことが言いたいの

【４】

少女 あのね、何で私はこんなに不幸なんだと思う？　知らない？　ちょ、まだ終わってないよ。まだ始まったばかりだよ。聞いてよ。確かにね、世の中の不幸な人と比べたら私はすっごく幸せだと思うよ。それは分かってるよ。でもね、何か釈然としないんだよね。例えば、友達と三人で出かけたとするでしょ。三人で並んで歩いたり座ったりできないときは二人と一人になるでしょ。そしたら大抵私が一人になるの。それだけじゃないよ。家でお菓子を分けて食べるときがあるでしょ、そういうときに私だけトイレに行ってたりして、その間に私の分がなくなってるの。おかしくない？　え？　家族として認知されてない？　怖いこと言わないでよ。家族だよ。でも、そういうことがよくあるの。タイミングが悪くて私だけ損したり仲間外れになったり。トイレに行かなかったら解決できる問題じゃないでしょ。その場にいる誰かが不幸を引き受けなきゃいけないんだとすると、それが私なの。私の不幸はそういうタイプの不幸なの。電車に乗るときに私だけ改札通れなかったり、私のタブレットだけうまく動かなかったり。かくれんぼをしてて自分だけ見つけてもらえなかったり。クリスマスに自分だけプレゼントをもらえなかったり。選ばれし人？　嬉しくない。

【５】

少女 まあ、でも、そういうこと。私はそういうタイプの不幸を背負ってるの。ここにいるのにいないことになる。昼間、星が見えないのと同じ。存在しないものを認識できないのと同じように、認識できないものは存在しない。でもそれって同じことなのかな。認識による存在確認のパラドックスで、誰にも認識されない私は存在しないのと同じになる。それっておかしいよね。だから私は一生懸命私を捜す。私はここにいる。これは物理的な存在。私は電話をしてる。だからここにいる。これは行動による存在。私はここにいると思っている。これは意志による存在。あなたとお話をしている私はここにいる。これは相互認識による存在。あなたの存在を感じることで私はここにいることができる。一方的に喋ってるだけでも、聞いてくれる人がいるってことが大事なんだよ。たとえばあなたが隣にいて、あなたと私が手をつないだとする。あなたが私に触るのか、私があなたに触るのか、それは認識の違い。事実は変わらない。流れ星はゴミが燃えてるだけだからいつまで経っても私の願いは叶わない。サンタクロースもツチノコも河童もいないし、もしかしたら私の存在だってフィクションかもしれない。あなたに触れることで私がここに在って、十光年先の私が振り返ったときに見えるのは今の私で、それは既に消えてしまった幻かもしれない。存在の不確かさにおののきながら、それでも私はここにいたいと願う。

【６】

少女 聞いてくれてありがとう。聞いてくれるだけでいいの。何であなたに話したのか？　だって神様なんでしょ、あなた。神様だったら人の運命とか変えられるんじゃないの？　無理？　あ、そう。そうなんだ。話？　終わらないよ。まだ話したいこといっぱいあるんだけど。え、もう終わり？　じゃあ会って話そうよ。嫌って言わないでよ。嬉しいでしょ、私に会えるの。本当に嫌そうな声出さないでよ。うん、今から。お腹空いたからカルボナーラとペペロンチーノ持ってきて。コンビニで売ってるのでいいよ。それぐらい叶えてよ。私からのお願い。両方食べるよ。じゃあ半分こしよ。うん、待ち合わせ場所は、高台の公園、の木の下。うん、分かった。じゃあね。絶対来てね。待ってるからね。すぐ来てね。うん、バイバイ。

 終わり。